



ちよだりバーサイドプロジェクト —千代田区の舟運観光事業について— 岡田 邦男会員

私は東京都大田区山王の出身です。結婚を機会に千代田区岩本町に居住するようになり、30年近くがたちます。おかげさまで地域の方たちにはたいへん、よくしていただき、このお茶の水ロータリーをはじめとして神田明神宮鍵講、万世橋交通安全協会、神田法人会、千代田区日中友好協会、岩本町・東神田ファミリーバザールなど地域のさまざまな活動にかかわらせていただいています。本日はその中でも私が最近10年ほどの間、活動しております千代田区の舟運観光事業「ちよだりバーサイドプロジェクト」のお話をさせていただきます。

2011年頃、私は日本橋の日銀前にある「常盤橋御門」、明治10年に作られた石橋「常盤橋」の保存活動をしていた関係で、日本橋地域の方たちに知り合いが多く、現在の日本橋船着場の整備活動にも関わらせていただいていた。そんな私を見ていた当時の岩本町三丁目町会長で岩本町・東神田ファミリーバザール実行委員長をされていた故都筑廣文さんから「日本橋ばかりではなく、地元岩本町でも汗をかけ」との言葉をいただき、2012年8月に千代田区の後援と神田地域の岩本町・東神田・神田駅東・神田公園地区の神田駅周辺の各連合町会役員を中心に、当初は「神田リバーサイドプロジェクト」の名称で発足しました。活動目的は「2012年の東京スカイツリーの開業を契機に注目の高まる舟運観光を岩本町東神田ファミリーバザールと連携させ、地元の千代田区和泉橋防災船着場を観光と防災の拠点として、地域活性化事業の核として活用していくこと」とし、会長は都筑廣文さん、事務局長には私が就任しました。現会長の石渡伸幸さんは当時まだ、区議会議員でしたので区議会、行政からバックアップをいただきました。舟運事業は船がなければ成り立ちません。幸い日本橋で一緒に活動していた浅草橋三浦屋7代目の新倉健司さんに間に入ってください中央隅田漁業協同組合・屋形船東京都協同組合の全面的な協力を受けることとなりました。

その後、2015年3月千代田区議会により「水辺を魅力ある都市空間に再生する条例」が可決。活動の範囲が千代田区全体に拡大するのに伴い、名称を「ちよだりバーサイドプロジェクト」に変更。都筑会長が亡くなられたことで石渡伸幸さんが会長に就任されました。さらに2016年7月には千代田区議会より会長に小林やすお議員、副会長に嶋崎秀彦、河合良郎議員に就任いただき、17名の区議会議員有志により「ちよだりバーサイドプロジェクト議員連絡会」も結成、スタートしました。

現在では千代田区行政、観光協会、さらに淡路町再開発地区、秋葉原再開発地区、丸の内大手町再開発地区、日本橋再開発地区と連携しながら秋葉原和泉橋防災船着場、水道橋の新三崎橋防災船着場、千代田区役所の千代田区防災船着場の3カ所の防災船着場を活用、さらに日本橋船着場、浅草二天門発着場など隅田川に設置されている船着場とも連携させることで千代田区の舟運観光を発展させ、合わせて地

域の防災事業を進めるべく活動を行っています。

「ちよだりバーサイドプロジェクト」では、①江戸城外堀の石垣 ②神田川・日本橋川の震災復興橋梁 ③2020年に向けた五輪会場と湾岸地域の3点を観光事業の大きな柱としています。①では残された外堀の石垣や常盤橋御門の石垣修理、現在進行中の常盤橋の修復工事により解明された江戸城の歴史を通じて、文化財としての外堀を観光資源として活用します。②では神田川、日本橋川に残されている100年前の関東大震災後の震災復興橋梁を文化財として保存し、震災復興期の都市防災の思想、グランドデザインが現在もなお残され、都市インフラとして機能する防災都市東京・千代田をPRします。③では建設が急ピッチですすむ辰巳、有明地区と豊洲市場などをクルーズで巡ることで2020年に向けて変貌しつつある湾岸地域を水辺から確認。東京湾岸部の現状や問題点を明らかにしていきます。

このように、例年、春の「千代田のさくらルーズ」「江戸城外濠の石垣と江戸城ウォーク」「岩本町・東神田ファミリーバザール/スカイツリークルーズなど」千代田区の地域特性を重視したクルーズを企画、運営し、平均で毎年3000人以上の参加者を集めるようになってきました。昨年度春よりはJR東日本(株)びゅうトラベルサービスともコラボした神田のまちと江戸城を掘り下げる企画も始めました。

また、地域の方たちや地元の小学生たちにも河川に親しんでもらう様々なクルーズを企画、運営しています。「秋葉原駅周辺地域生活環境改善推進連絡会」の水質調査とクルーズは昨年で8回、「麹町法人会・丸の内法人会・神田法人会青年部会主催の「船に乗って町と税金を考えよう—ちよだ小学生リバークルーズ」は9回となりました。和泉小の6年生には毎年、「川から見る地元の神田」という見学クルーズも毎年行っています。

防災事業では、2016年11月に市民参加型の社会実験「水上タクシーと帰宅困難者防災訓練を行うなど地域防災拠点としての防災船着場の重要性を周知し、神田消防署、地域の消防団、各町会と連携した帰宅困難者支援訓練も企画、現在では警察庁災害対策本部と中央隅田漁業協同組合・屋形船東京都協同組合との緊急災害時の職員輸送プランの協議も進行中です。

